



「事故を語り継ぎ安全を誓う会」で過去から学ぶ



開催の主旨を説明する大久保書記長と聞き入る参加者

6月15日、中央本部で「事故を語り継ぎ安全を誓う会」を開催した。各級機関・系統から21人が参加し、2016年3月17日に発生した日豊本線東中津き電区分所における感電死傷事故について学んだ。

冒頭、すべての鉄道事故や労働災害でお亡くなりになった方々に黙祷を捧げ、続いて中央本部の大久保浩書記長が「JR九州は鉄道事業と相乗効果の高い事業領域を拡大してきたが、2023年の7月には大阪のマンション建設現場で、協力会社社員が墜落するなど労働災害は依然として発生している。JR九州でも、2002年2月に発生した鹿児島本線、海老津駅～教育大前駅間の列車衝突事故をはじめ、過去に重大な鉄道事故や労働災害が発生しているが、時代とともに、そのような事故を知らない世代の社員が増えている。社員が事故を教訓として忘れず語り継ぐ取り組みとして、この会を企画・開催した。事故の体験談を自分事として捉え、持ち帰ったものを職場の仲間に広めてほしい」と趣旨を説明した。

次に、井口祥一中央執行委員が「日豊本線東中津き電区分所における感電事故」について講演を行い、最初に、私たちが普段何気なく使用している電気の仕組みや、電気が目に見えない恐さについて触れた後、事故の概況や当時の作業の取り扱いについて説明を行った。講演の途中には、当時電力指令員として勤務していた、熊本地本の井手正成書記長も壇上に立ち、当時の緊迫した状況の様子を語るとともに「自分の判断や作業一つが、人命を左右する。その責任の重さと恐さを改めて胸に刻んだ」と強い思いを述べた。その後は、事故の対策や労災の与える影響、JR連合の安全に関する取り組みが紹介され、結びに井口中央執行委員は「労災は日常を一瞬にして壊してしまいます。二度と発生しない！させない！という不断の決意で安全を築きましょう」と訴えた。

最後は、吉田祥司中央執行委員長が感想を述べ、参加者全員で意識を共有した。JR九州労働組は今後も安全への取り組みを継続していく。



講演する井口中央執行委員

日豊本線 東中津き電区分所における感電死傷事故

概況 2016年3月17日、日豊本線東中津き電区所で特高主回路及び負き電線張替作業に従事していた協力会社社員が、誤って加圧中の下り線の特高主回路がいし部に触り、感電受傷した。

工事指揮者は、直ちに電力指令にき電停止を要請するとともに救急車の手配を行ったが、現地到着した救急隊員により死亡が確認された。

対策 変電所等及び異なる電系統の混在する、電車線路における停電作業は、原則共通間合いで行う。